

■ 令和4年度 第2回 東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会

日 時：令和5年3月22日（水）午後2時～

会 場：東区プラザ 多目的ルーム1

（司会 事務局：東区健康福祉課 岡村課長補佐）

お疲れ様でございます。定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を開会いたします。

本日はご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございました。

司会を務めます、東区健康福祉課課長補佐の岡村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議に際しまして、本日の欠席者の報告をさせていただきます。桃山校区コミュニティ協議会の山口委員、大形地区コミュニティ協議会の新田委員、中野山小学校区コミュニティ協議会の松澤委員、公募の井上委員から欠席のご連絡がございました。また、東中野小学校区コミュニティ協議会の野村委員からは少し遅れるとの連絡が入っておりますので、よろしくお願いたします。

本日の会議につきましては、後日会議録を公開するため録音させていただきます。あらかじめご了承をお願いいたします。

また、本日は新潟県立新潟よつば学園から、熊倉優幸様にご出席いただいております。後ほど議題1で、新潟よつば学園についてご説明いただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

続いて、会議資料の確認をお願いいたします。先日、郵便でお送りさせていただいたものを、順に確認いたします。はじめに次第、資料1「地域福祉活動計画に関する地区別計画進捗状況一覧」でございます。資料2「令和5年度東区健康福祉課 特色ある区づくり事業（案）一覧」でございます。資料3「令和5年度東区社会福祉協議会 主な事業（案）一覧」でございます。事前配付資料とは別に、当日配布資料としまして、新潟県立新潟よつば学園様の資料でございます。もう一つ、よつば学園様から、A4横になりますけれども、高等部職場体験受入れ先事業所マップ。また、冊子「東区地域ふれあいプラン」は本日お持ちいただいておりますでしょうか。以上の資料でございますけれども、お持ちでない方がいらっしゃいましたら、おっしゃってください。よろしいでしょうか。

次に、東区健康福祉課、星野課長から開会にあたりごあいさつ申し上げます。

(事務局：東区健康福祉課 星野課長)

皆様、こんにちは。東区健康福祉課長の星野でございます。本日はご多忙の中、令和4年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、推進委員の皆様からは、日ごろから地域福祉計画の推進にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

はじめに、昨年7月に開催いたしました第1回推進委員会において、新潟よつば学園に関して委員の皆様が以前より関心を持ってくださり、協力したいという声があがったこと、さすがに東区の皆様だと思っておりました。新潟よつば学園様へ、推進委員会への出席について相談しましたところ、快くお引き受けいただきまして、熊倉様からご説明いただけることとなりました。熊倉様、本日はよろしく願いいたします。委員の皆様におかれましては、地域の皆様へ新潟よつば学園について情報を共有していただき、東区全体で理解を深めることができればと思っております。

また、今年5月には、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられる予定でございます。日常生活がどのように変わっていくか分からない部分が多々ございますけれども、今後の状況に注視しながら、引き続き皆様と東区の地域福祉の推進について考えてまいりたいと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

(司会 事務局：東区健康福祉課 岡村課長補佐)

続きまして、東区社会福祉協議会の小林事務局長よりごあいさつを申し上げます。

(事務局：東区社会福祉協議会 小林事務局長)

東区社会福祉協議会事務局長の小林でございます。本日はご多忙の中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、推進委員の皆様におかれましては、日ごろより東区地域ふれあいプランの推進に多大なお力添えをいただいておりますことを重ねて感謝申し上げます。

この第3期の東区地域ふれあいプランがスタートしまして2年目が経とうとしております。前回の会議から今までの間、コロナ禍第8波もございましたけれども、区内12の地区別計画における目標や目指す姿の実現に向けまして、各地区ではさまざまな工夫を凝らしながら熱心な取り組みが進められてまいりました。そして、これからの地域の活動を考えますと、大きな懸案であります新型コロナウイルス感染症が5月に5類に移行するという事も踏まえまして、さらなる活発化が期待されるところでございます。

東区社会福祉協議会としましても、地域での取組みがさらに充実しますように精いっぱい
の支援に努めてまいります。後ほど地域の取組みと私どもの新年度事業の要点等をご説明いた
しますので、よろしくお願いいたします。

本日は、委員の皆様から忌憚のないご意見をちょうだいできれば幸いです。どうぞ
よろしくお願いいたします。

(司会 事務局：東区健康福祉課 岡村課長補佐)

次第2、議事に入ります。委員会の進行につきましては、東区地域福祉計画・地域福祉活動
計画推進委員会開催要綱第4条第2項により、委員長が行うこととなっておりますので、会議
の進行を小池委員長からお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(小池委員長)

それでは、委員長を務めさせていただきます。

今回の会議も、皆様から忌憚のないご意見、積極的なご発言をいただきながら、充実した内
容として進めていきたいと思っております。皆様からのご意見等、どうぞよろしくお願いいたします
します。

議題の1点目に入っております。新潟県立新潟よつば学園の概要につきまして、新潟よつ
ば学園の熊倉優幸様、説明をお願いいたします。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

皆様、こんにちは。県立新潟よつば学園で進路指導を担当しております熊倉優幸と申します。
よろしくお願いいたします。

本日はこの会にお招きいただきまして、本当にありがとうございます。なかなかこういう機
会はないと思っていて、ここでうちの学校のことをお話できるということが非常にありがたい
というところで、本来であれば管理職がお邪魔させていただくところだと思うのですが、代理
で、今日は私のほうでお話をさせていただきたいと思っております。

今日、私のほうで用意した資料は2部あります。一つ目の学校要覧をご覧ください。

ご存じのとおり、当校が竹尾に越してきました早や1年となります。もともとのうちの学校の
の成立ちといいますか、昨年まではどうだったかというところなのですが、新潟ろう学校と新
潟盲学校、この二つが統合して、名前も全く新しい学校になって、竹尾に越してきたというこ
とになっています。

よく質問されるのが、盲学校とろう学校の生徒さんがいる学校、いわゆる視覚障がい、聴覚

障がいの方がいる学校なのですねと言われることが多いのですが、実はもう一つ、自立教育部門がありまして、いわゆる知的障がい、あるいは発達障がい、精神障がいの方もいらっしゃいますが、そういった障がいをお持ちの方のほうが数的には今圧倒的に多い学校となっております。ですから、この三つの、一応知的をメインとして、もう、盲、自立、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、この三つの障がいのある方がかよっている学校だと思っていただければと思います。

学校の名前の由来から、今日、ここでぜひ皆さんにお伝えしたいことが、「よつば」という名前がなぜ付いたのかということなのですけれども、先ほど申しましたように、生徒の障がいの種類が3種類あると。そこにプラスアルファ、地域の方々、障がいのある児童生徒が、地域の方々に見守られながら、その中で自立していく、育っていくということを理想として「よつば」という名前を付けたということでもあります。

ということは、学校の中にいる私たち職員だけではなくて、ここにいらっしゃる東区の地域の方々やうちの学校の生徒を温かく見守っていただいて、その中で勉強したり、あるいは働いたり、将来的には生活をこの東区の中で続けられていければ本当にいいのかなど、そういうことを理想に立ち上がった学校だと考えております。由来の文章についても、いくつかその「地域」という言葉が入っております。

ただ、本当にもう1年、うちの学校、引っ越して来てから1年経つのですけれども、なかなか地域の皆様にその全貌というか、どのようなことをやっているのか、どういう生徒がいるのか、正直なところあまり伝わっていないというお話が聞かれることがあります。今日は、簡単な学校要覧ですので私のほうで全部お伝えすることは難しいとは思っているのですけれども、その一部をかいつまんでご紹介したいと思っております。

中を開いていただいてよろしいでしょうか。

白黒で少し見づらい写真が多くて申し訳ないと思いますが、今、申しましたように、3部門の生徒が、それぞれの建物の中で、同居というか一緒に過ごしているという学校です。私たちも昨年度まで、この三つの障がいの方々と一緒にすることでどのようなことが起きるのだろうと、正直、かなり心配をしておりました。一番大きい心配が、視覚障がいをお持ちの方と知的障がいの非常に活発な、例えば廊下を好きなように走るような生徒さんが一緒に学校の中に入った場合、どのようなことが起きるのかと、すごく心配をしておりました。例えば廊下は右側を歩くように、小学校の中では当たり前のお話なのかもしれませんが、改めて、その辺りを注意しながら生活していきましょうということで始まった学校ですが、本当に私たちが思うより、子どもたちのほうがそのルールにのっとったというか、本当に今まで知らなかった方々、視覚障がいの方々を知らなかった生徒たちが一緒に暮らす、同居することで、「ああ、こんなこ

とに注意していかなきゃならないのか」ということを、私たちの言葉よりも、実際にお付き合いして、関わってみて初めて分かったと。今、私たちが例えば廊下を歩きなさい、右側を歩くんですよということを言わなくても、子どもたち、その辺は全く問題なく過ごしております。ですから、一緒になったということが本当にプラスになって今出ていると感じております。

それぞれの部門でどのような授業をやっているかということについては右側に載っております。うちの学校の場合は、幼稚部から専攻科、理療科というかなり大人の年齢の方々まで、かなり幅広い、県内で一番多分幅広い年齢層の子どもたちが、子どもという言い方も失礼な方もいるくらいなのですけれども、本当にゼロ歳児から50歳代の方くらいまでいらっしゃる、幅広い年代の方がいらっしゃる学校です。もちろん、それぞれの部門で、一般高校に準ずる教育を行っている部門もありますし、一方で自立教育部門は特別支援学校の今までどおりの教育課程を行っているということで、その辺も、だいが学校の中で、授業のスタイルですとか集団の規模ですとか、だいが差があると感じております。

先ほど申したように、地域の皆様とのかかわりということでは今までこの1年、何もしていなかったのかと言われたときに、一つでもお答えできるかと思うものが、例えば右上の写真ですが、社会人を目指した職業教育という写真があります。これ自体は実は学校の中にある車を掃除しているというような写真ですけれども、学校の中で、将来、就職を目指して、多くの生徒さんが一般就職を目指すという状況ですので、そういう子たちが学校の中でこういった職業教育を行って、今度は実際に現場に出て一緒にお仕事をさせていただいている。それが真ん中の列の一番下の写真です。社会人を目指して。こちらは喫茶店の写真でしょうか。こういった形で現場に出て、皆様と一緒に仕事をさせていただいている。いわゆる職場体験と呼んでいますけれども、この活動を年間とおしてずっとやっております。

もう1枚、皆さんにお配りしたマップのところに、今年1年、どのような企業様とおつきあいできたのかということが分かるようにさせていただいております。いわゆる一般企業ということだけではなくて、幼稚園、保育園、店舗、いろいろなタイプの企業に出て一緒に仕事をし、いろいろな仕事を体験するということが彼らの視野が広がり、将来的にどのような就職先に就くか、本当にそれぞれなのですけれども、そういった基本的なところ、特に従業員の方、お客様とのコミュニケーションを学ぶというところ、これがこの職場体験の中でかなり育ってきたのかなと感じています。実際には週に1回、毎週、例えば水曜日あるいは木曜日と曜日を決めて、それぞれ事業所に、学校から一人で歩いて出かけて、1時間ほど仕事をさせていただいて、また歩いて帰って来るという活動を年間定期的に、ずっと続けております。子どもたちにとっては少しきつい場面もあったのではないかと感じてはおりますけれども、非常に力になったと思っております。

今後、来年度もこの職場体験の活動についてはぜひ続けていきたいと思っておりますし、新しい事業所とのお約束というお話もあって、週に1回ではなくて2回くらい出て、一緒に仕事をさせていただければということをお考えしております。

この地域との職場体験ということで、今、この地域の方々とお付き合いしているということなのですけれども、あくまでもこれは事業所にいらっしゃる方々がメインということになりますし、年齢的にも働ける方々の中でということでもあります。子どもたちにとってこれから大事だと思えるのは、こういった、いわゆる働く方だけではない、幅広い、小さい子から高齢者の方々まで、いろいろな幅広い方々とお付き合いするということ、彼らの、直接的にはコミュニケーションの向上といったところにもつながりますし、この東区の中でずっと生きていくといえますか、働いたり生活していくということについて、やはり幅広い年代の方にご理解いただくことが非常に大事なのかなということをお考えしております。ですから、学校としては、今後、地域の住民の方々との直接的な交流ができないかということをお模索中で、関係者の方々にも時々集まっていただいて、どのような交流ができるかということをお考えしている最中です。

ぜひ今後とも、そういった交流、生徒との交流という辺りで、ぜひ皆様にもご協力をいただきたいと考えています。生徒たち、いろいろなお仕事をいただくと、どんどん、地道に、こつこつ、ゆっくりではありますけれども、お仕事もできますし、あと、いろいろな方と関わりたいと思っている子もたくさんいます。ぜひそういう場をいただければありがたいと思っています。

学校要覧の最後のページについては、学校の成立ちですとかその辺りが書いてありますが、非常に場所的にすごくいいなと感じているのは、学校の南側に卸団地という会社の集まりが場所的にあるということで、今、その企業様を中心にお付き合いをさせていただいておりますけれども、今度はもう少し、本当に幅広い年代の方、幅広い地域の方々とお付き合いできるよということ、具体的に、今、何がというところはまだ出せないところで申し訳ないのですけれども、いろいろ皆様とお話し合いをする中で、より、いい形のものが出ていくといいなと考えております。

ぜひこれをきっかけにして、うちの学校のことをご理解いただき、ぜひ交流を図っていただければと考えております。今後ともぜひ、どうぞよろしく願いいたします。

(小池委員長)

ご説明、ありがとうございました。ただいまの説明に対してのご質問、ご意見等ございますでしょうか。せっかくの機会ですので皆様から聞いていただければ、熊倉様にお答えいただけるのではないかと思います。いかがでしょうか。

(江南小学校区コミュニティ協議会 新保委員※副委員長)

副委員長の新保です。

体育館はあるのですが、外のグラウンドというものはあるのでしょうか。例えばその外のグラウンドで子どもたちが遊ぶとか、例えば運動会をやって地域の人たちからも出てもらうとか、そういう形の中で交流というものを考えていらっしゃるのかなど。

まず外のグラウンドがあるのかどうか、お願いします。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

この図にはグラウンドがないですね。グラウンドはあります。かなり広いグラウンドがありますので、普段の授業等ではグラウンドを使って、走るなりサッカーをするなり、いろいろな競技で使っておりますし、運動会、学校では体育祭と呼んでいますが、体育祭も、これまでは残念ながら新型コロナウイルス感染症の対応で外部の方をお呼びしないということで、ここ3年、やってきておりました。本当に生徒と保護者だけとかということで、広いグラウンドなのですけれども、非常に寂しい、寂しいというとあれですけれども、物足りない感じがずっとあったわけなのですが、次は5月の終わりに体育祭が予定されていますけれども、ぜひ地域の方々に来ていただくような形でできれば本当にいいなと思っておりますし、そういう方々と一緒に何か競技ができたりとか、交流を図れるような場が体育祭、あるいは11月3日に文化祭となっておりますので、文化祭にも来ていただいて、何かできればとすごく今考えているところです。

(小池委員長)

ありがとうございます。そのほか、皆様からご質問等ございませんでしょうか。村山委員、何かありますか、大丈夫ですか。

(包括支援センター山の下 村山委員)

寄宿舎というのがあって、だいたいどういう方が泊まっていられる、そこを住まいにしている方がいらっしゃるのでしょうか。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

寄宿舎には、月曜日から金曜日まで泊まっていられる生徒さんがいます。うちの学校、自立教育部門はほぼ東区の方ということで非常に近い、自力で登校しているのですが、盲部門、視覚障がいの方、あるいはろう部門の方、県にそれほど、ほかに学校があるわけではないです。盲部門の方はうちの学校しかないので、通学範囲がものすごく広いです。遠い方は柏崎、ある

いは佐渡、村上、そういったことで、毎日通学することが困難だという方については寄宿舍に入っていて、そこで平日を過ごして、土日、お家に帰ってもらってという生活をしております。

(小池委員長)

ありがとうございます。私からも。いただいた資料の中の盲教育部門のところに該当しているお子さんたちはほぼ寄宿舍で生活されているのでしょうか。通われている方もおられるのでしょうか。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

自力で、例えば新発田から電車に乗って、新潟駅からバスに乗ってという方もいらっしゃいます。盲部門といっても全盲の方と弱視の方とかなり差がありますので、自力で動ける方は自力で通っていただいています。

(小池委員長)

ありがとうございます。この学園の中で生活をしているお子さんたちと、近隣を含め、通って来られてお子さんたちが一緒にここで過ごしているという状況ですね。

渡辺委員、お願いいたします。

(下山コミュニティ協議会 渡辺(順)委員)

移動する前は物見山に学校がありましたか。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

新潟ろう学校ですか。

(下山コミュニティ協議会 渡辺(順)委員)

はい。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

小金台です。

(下山コミュニティ協議会 渡辺(順)委員)

私は下山地区民生委員児童委員協議会の委員なのですけれども、昔、よく、幼児のお子さんがお楽しみ会をやってくださって、招待状をいただいたのです。とても残念で、本当に、どこに移動したのだろうかと思っておまして、今、これを見せていただいて、すごいですね。本当にすごいところ。意見ではなくてすみません。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

ありがとうございます。なかなか今年、本当にできたばかりの状態なので、周りの方をお呼びするような体制がまだできていないというところもあるのですが、ちなみに、ろう部門では、卒業したあとに鍼灸院を開く、あるいはマッサージのお店を自分で開きたいという方もいらっしゃって、学校の中にそういった施設、整体院のような施設、部屋がありまして、地元の方々に来ていただいて、多少、料金を取らせていただいているのですが、子どもたちの勉強を兼ねて、地元の方々の施術というか、そういうことをやらせていただいていますので、あまりPRできていない感じもあるのですが、毎日何人かの方が必ず来ていただいております。もしよろしかったらぜひご利用いただければと思います。

(小池委員長)

東山の下コミュニティ協議会 和田委員、お願いいたします。

(東山の下コミュニティ協議会 和田委員)

以前、自立支援のほうの活動で、山の下の方にふれジョブというのがありまして、地域の、私も参加して、企業と一緒に手伝いに行った経緯もあるのですが、今のこの会社にお手伝いに行くという、これはどういう形態でやられているのでしょうか。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

授業の一環、授業の時間内で、授業としてお邪魔させていただいております。放課後等ですと、職員が行ったり子どもたちと一緒にということがなかなか難しい状況がありますので、職業生活という作業的な学習をする時間が必ず毎日、月、火、水、木の午後はずっとそういう時間が設定されています。その時間の中でできることをということで、歩いて移動する、歩いて行き来できてお仕事もできてというところで、割と、本当に身近なところの企業様をお願いしています。生徒は、一人で出かけます。一人で出かけて、一人で仕事をして、一人で帰って来るといった形を基本に。

あとは、全ての生徒です。障がい重い方もいらっしゃるのですけれども、重い方なりにできる場所、できる仕事を探して、とにかく全員が、50人いるのですけれども、全員が外に出て仕事をする、これを目標に今年はやっておりました。

(東山の下コミュニティ協議会 和田委員)

以前は、地域のボランティアとセットと言いますか、生徒さんとボランティアの人。私はコンビニエンスストアに行っておりました。コンビニエンスストアの陳列をするお手伝いを生徒さんと一緒にやったので、今後、地域とのそういう絡みということを考えておりますでしょうか。そういうものの考えはございますでしょうか。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

例えばコンビニエンスストアということですか。

(東山の下コミュニティ協議会 和田委員)

いいえ。地域の皆さんと生徒さんが一緒に職場で。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

私どもではなくてということでしょうか。地域の皆様からボランティアで、例えば学校に来ていただいて。

(東山の下コミュニティ協議会 和田委員)

販売をするとか。今、お聞きしたのは、授業の一貫として、学校としてやられておりますので、私、山の下さんが立ち上げてくださったぷれジョブというのは、ボランティアを募集しまして、ボランティアさんと生徒さんと二人で、それも生徒さんは生徒さんでコンビニエンスストアに直接来るし、私も直接行って、そこでお仕事をして帰って来るという経緯だったものですので、そういうものは考えてはいないのですね、今のところ。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

そうですね。正直、今のところというか、この職場体験に関しては、あくまでも将来、卒業したあと、自分が就職したいという子どもたちが基本的には自力通勤を求められる企業が大多数でありますので、一人で行って一人帰って来られるということを基本に考えておりますけれども、それ以外の部分で、例えばイベントですとか、学校に来ていただいて何か一緒にとい

う辺りのことで、地域の方々に入っていただくということは可能性としてはあるのではないかと考えておりますし、ありがたいお話ですので、ぜひよろしく申し上げます。

(東山の下コミュニティ協議会 和田委員)

ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございます。そのほか皆さん、ありませんでしょうか。大澤委員。

(東区民生委員児童委員協議会 大澤委員)

竹尾地域の民生委員をしています大澤と申します。

令和4年4月にこのよつば学園ができて、前回の会議のときもお話したと思うのですが、この四つのマークの中に地域というものが入っているので、何かできることはないのかなと思っていた矢先に、熊倉先生から、社会福祉協議会のほうで何か地域に役に立つことはないでしょうかというお話をいただいたということで、それが私のほうに来たのです。民生委員だけでは何か不備があると悪いと思って、木戸のコミュニティ協議会の会長に相談しまして、会長からよつば学園様にお話がいったと思うのですが、とにかく会議を持って、何ができるかを模索してみようということで、会議を持つことができました。

1回目の会議は昨年暮れだったと思うのですが、実際に学校の中を見学させていただきました。会議を開いたのですが、やはり、障がいを持っている子どもたちは、その一人一人が全部障がいの度合いとか種類も違うもので、すごく私も、何を共通なものを探したらいいのかと、すごく考えたのですが、やはり、それを突き詰めていくには、やはり何度か会議を開く必要があるのではないかと、今、1か月に1回ずつ、よつば学園さんと会議を持っております。そこに、小学校が二つ、竹尾と木戸小学校のコーディネーター、木戸中学校と東新潟中学校のコーディネーター、基幹支援センターと社会福祉協議会の皆さんが会議に出席して下さって、これからどういうことができるのか、毎月1回ずつ話し合っている状態です。

ですから、今、そのことについて、すごくいいことなので、現在進行中だと思っております。ですから、そんなに急がないで、ゆっくり話し合いながら、お互いにできることを考えていこうと思っています。

それから、3月1日に、手話教室をよつば学園さんから開いていただきました。そのときに、地域のところに回覧板のようなもので「手話教室を開きます」ということをやったのですけれど

ども、30名以上の地域の方がいらっしゃってくれて、1時間だったのですけれども、名前の手話とか、あいさつの仕方とか、そういうことを教えてくださって、和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができましたけれども、地域の方はみんなそういうことを待っているのです。何か手伝いができるのではないかと思って。ですから、それが1回ではなくて2回、3回、4回と続くことを願っております。

(小池委員長)

貴重なご報告をありがとうございました。既に前回の会議からこの間に、学校と地域の皆さんで顔を会わせて会議を持っていただいているということをお聞かせいただき、これは本当に継続で、これからどのような形で展開していくかということが楽しみなところだと思います。

今、地域のところという話でしたけれども、まだ詳しく、全域の中でも検討されていることもあるかと思うので、引き続き、一緒に何かできることを考えていただければありがたいと思います。

貴重なご質問等、ありがとうございました。これをきっかけに、また東区全体で、新潟よつば学園の皆さんと一緒にできることを考えていただければと思います。

熊倉様は所用のためここで退席となります。もし最後に一言、何かございましたら。よろしいでしょうか。

(新潟よつば学園 熊倉先生)

本当に今日はどうもありがとうございました。

先ほどの手話研修もそうなのですが、一声お願いするとあれだけ大勢の方が集まる、昨年度まで本当に少人数でやっていた会なのですけれども、非常に賑やかな会になって、しかも皆さん、喜んでいただけたということで、学校職員も一緒に喜んでおります。ぜひ今後とも、こういう形で、まず何ができるかということは本当にこれからなのですけれども、ぜひ仲良くしていただければと思っております。よろしく申し上げます。

ありがとうございました。

(小池委員長)

ありがとうございました。皆様、拍手をお願いいたします。

議題の2点目に移ってまいります。続きまして議事(2)地域福祉活動計画に関する地区別計画の進捗状況につきまして、事務局、東区社会福祉協議会から説明をお願いいたします。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

東区社会福祉協議会事務局長補佐の帯川でございます。本日はよろしくお願いたします。私からは、今年度、各地区、12地区全てで開催させていただきました地域福祉活動計画に関する座談会の報告をさせていただきます。

お配りしました資料1を基に、各地区でこのような話をされましたということピックアップしてお伝えしたいと思います。不足の部分等ありましたら、本日お出でいただいている各地区の皆様からいただければと思いますので、そのときはどうぞよろしくお願いたします。

資料1をご覧ください。山の下地区から始まりまして、12地区、この順番で、次のページから1地区1ページございますので、ご覧ください。その際、こちらにまとめた資料については、当日お話したことのまとめのみになりますので、もともとは冊子のほうの地域福祉計画・地域福祉活動計画の冊子の後半に地区別計画のページがございますので、そちらをご覧くださいながらお願したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

まず、一地区目からまいります。

山の下地区ということで、令和5年1月27日にお集りいただきまして、座談会を開催させていただきました。この資料1につきましては、地区別計画の流れにあります「この地区の良いところ」、「この地区の課題」、そして地区別計画の右側のページにあたります、どのようなことを具体的にしていくかというところ、この順で皆さんにお話をいただきまして、まとめさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず山の下地区の皆さんで、地区の良いところについて。計画を立てた令和2年からどのような変化がありましたかということをお聞きしましたところ、学校のつながりは新型コロナウイルス感染症の影響で少し薄れてしまったということが出ておりました。地域の茶の間が増えたり、介護予防の体操を継続されていたりと、コロナ禍であっても、つながりづくりや、もしくは健康寿命の延伸といったところに取り組みの良いところを伺いました。そして、一つだけ新しいことで良いところがありまして、まちの変化を感じる場所として、新しい家が少しずつできはじめて、新しい住民が増えたように感じるというお声がありましたので、今後の、これからのこの地区の地域づくりというところで、新しい住民の皆さんがまた大きなポイントになっていくかもしれないと感じました。

その下の地区の課題につきましては、継続が多かったのですけれども、情報共有が図れなかった部分が少し改善してきたように感じるということで、自治会・町内会長の皆さんにつきましても各種支援事業についての理解が少し深まったようだとおっしゃっていただきました。ただ、課題として、お困りの方からお話をいただいたときに、それを行政や支援機関のどこにつないでいいかわからないというお声がありましたので、そういったところについて、今後、改

善していく課題とあげられております。さらに担い手について、地域の活動を担う皆さんの高齢化が進んでいて次の世代がなかなかということをおっしゃってありました。

実行計画についての進捗については、一番下の項目です。地域の課題解決のための会議を開催しようとあげておられたところにつきましては、自治会・町内会の皆さんと民生委員児童委員の皆さんとの情報交換会を3年ぶりにやっと開催できたということをおっしゃってありました。また、顔が見える関係づくりということで、新型コロナウイルス感染症の影響でなかなかできなかったところについて開催を検討していきたいという内容ですとか、令和4年度に新しく始められたイベント、山の下夜遊びランドやハロウィンパーティのようにたくさんの方にお集まりいただいた事業があったということで、こういったところから、先ほど出た担い手不足を補ってあげればと、これから参加の機会を増やしていきたいというお声がありました。

このように少しピックアップになるのですが、山の下地区では以上のことが座談会でお話をいただきました。

米山委員から、何か補足いただけることがあれば。

(山の下地区コミュニティ協議会 米山委員)

特にありません。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございます。次の地区に進ませていただきます。

桃山地区です。

桃山地区については、支援の団体としてあゆみ会ですとか、2層の取組みの中でできた支え合いの活動の中に入ってきての座談会となりました。

地区の良いところとして、ごみ出しや除雪の支援をしているところ、今年の冬の大雪もありましたのでたくさんのご相談が入ったということです。ただ、対応を3人でされたということで、もしできるのであれば、区役所でお持ちの除雪機を助け合い団体という活動にもお貸しいただければいいなというお声があげられました。地区の良いところで、先ほどお伝えしましたあゆみ会の活動や支え合いのしくみづくりのところ、これから立ち上がるころ、既存で長く活動されたところが継続してこれからもやっていきたいとおっしゃっていました。

地区の課題は、こちらの地区も担い手の育成をやっておられましたが、コロナ禍でリモートワークでご自宅にいる方が増えてきて、もしかしたらかわり方の変化ができるのではないかと、少し前向きに捉える意見もあげておられました。

実行計画については、1番の、問題をみんなで共有し、地域で顔が見える関係づくりをしよ

うということで、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたので、そろそろアンケートを、困りごとでどのような変化があるか取ってみたいという声があがっておりました。新型コロナウイルス感染症の前とあとで、困りごとの変化が出ているのではないかという予想をされておりました。次に次世代の担い手、2番です。担い手育成の課題があげられていたのですが、広報紙の活用や、自治会の会長から直接お声がけいただく等で、若い世代のボランティアさんが増えてきたというお話がありました。また、3番の地域で見守り・助け合いのところについても、これからということで、コロナ後のこれからのをどう作っていくかというお話をされておりました。

桃山地区については以上となります。今日は山口委員がいらっしゃらないので、このまま次の地区に進ませていただきます。

東山の下地区です。

東山の下地区の良いところを三つあげられております。じゅんさいの会の活動をされている皆さんにつきましては、活動を計画されているのですけれども、なかなか高齢化が進んでいて、新規の受付はしていない状況ということですが、ごみ出し支援という日ごろの暮らしに直結している支援についてはこれからも継続していきたいというお話がありました。子どもの見守り体制ですとか高齢者の方の見守り体制についても、組織化されて実施されているということで、特に友愛訪問につきましては、支会でも友愛訪問事業でたくさんのボランティアの方が活動に取り組んでいらっしゃるということです。交流事業についても、いくつかの事業を取り止めてしまっていることがあるということでも、今年度は東山の下フェスティバルを復活させるということで、コロナ後の対応も踏まえて工夫を凝らした開催をするというお話がありました。

地区の課題としては、こちらも担い手、後継者不足が継続課題としてあげられておりますが、新しく入って来られる方、こちらの地区も町内での直接の声かけが有効だったのではというお話が出ております。

実行計画についてです。コミュニティ協議会と自治会・町内会単位で仕組みを作っていこうという部分につきましては、地区を四つに分けたブロックで、それぞれの自治会・町内会の中で福祉部の立ち上げが進んで体制が整ってきているということで、ゆくゆくはこのブロック単位でさまざまな動きができればというお話でした。東山の下地区では、移動支援ということで、足の問題についてどう取り組んでいこうかということにここ数年をかけて取り組まれております。その中で、継続した事業ができるのだろうかということ、その体制づくりについても、さらに皆さんで検討されていらっしゃいます。また、2番の「子どもから大人まで顔の見える関係づくりをしよう」の項目につきましては、子どもの見守りやイベントといったところをとお

して、関係をしっかり作っていければというお話があげられておりました、ただ、学校でコロナ前とあとで人が変わってしまって、以前やられたことがそのままできるかという若干の不安もあげられておりました。

以上となりますけれども、東山の下コミュニティ協議会 和田委員から何か補足等をいただけるようでしたらお願いいたします。

(東山の下コミュニティ協議会 和田委員)

オンデマンドの交通は、少し業態が変わりますけれども今年度も継続ということで決定いたしましたのでご報告いたします。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございました。次に進ませていただきます。

下山地区です。

下山地区の良いところとして各種交流事業をあげられておりますけれども、やはり中止してしまったものがいくつかあるということですが、お茶会など、継続できているものもあるということで、コロナ禍であったもつながり続けることをやめない気持ちを大事にしているとおっしゃっていたのが印象的でした。子育てサロンも、この地区は3か所開催されているのですが、子ども園が新しくできたり、働くお母さんが増えてきたりということがあって、参加されている方が、今までは学校に入る前の子たちだったのが、園に入る前の子たちということで、年齢層がかなり下がってきたので今後の活動をそれに合わせて見直しを図っていければというお話がありました。

地区の課題については、情報共有と地域の茶の間をあげられておられます。避難行動要支援者名簿の使い方につきまして、少しずつ支援の必要な方の把握が進んできたのではないかとということで、課題の中でも前向きなところをあげておられます。

実行計画では、自治会・町内会と民生委員児童委員との連携を深めていきたいということで、年1回開催していた会は中止としていたのですが、情報の共有、地域の要となる自治町内会長と民生委員児童委員の皆さんのつながりづくりの必要性を感じているということで、再開に向けて準備していくということでした。支え合いのしくみづくりにつきましても、令和4年9月に支え合いの会が立ち上がりました。支援の内容としては庭掃除や草取りが多いということですが、これからどんどん対応できるメニューを増やしていきたいというお話です。また、新規のお話をしますと、新規事業としてフレイル予防の事業をあげておられます。コミュニティ協議会としてフレイル予防、高齢者の虚弱予防ということで、介護予防体操ですとか

さまざまな取組みをこれからも継続していきたいということです。

渡辺委員から、何か補足をいただけることがありましたらお願いいたします。

(下山コミュニティ協議会 渡辺(順)委員)

特にありません。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございます。次の地区に進ませていただきます。

紫竹中央地区です。

地区の良いところとして、交流事業です。例年、世代交流事業の「もちつき大会」を大きく開催されていたのですが、ぜひ再開したいということで、この座談会が行われました9月の時点では皆様準備を進められていたのですが、新型コロナウイルス感染症の感染者が増えてしまったということでやむなく中止になったと後ほどお聞きしました。ただ、できる限りのことをどんどんしていきたいというお気持ちがすごく伝わる座談会の場でした。安心安全の取組みの中で地区の特色としてあげられていた通学路の見守りや火の用心活動については、継続できているということです。

地区の課題についてですけれども、もともとあげられていたものについては継続の課題というところですが、新しくあげられたものとしましては、今工事中の栗の木バイパスの関係で、交通の便が悪くなってしまったということを感じられているということでした。また、空き家の問題がかなり見えてきていて、庭木の枝が伸びてきてもなかなかどうしようもないということがあって、そこについて地域としてどう取り組んでいけばいいものかという課題としてあげられております。

実行計画については、1番については継続して活動されていて、子どもの安全を見守っていかうということがあるのですが、学校との関係性は計画を立てたときにもあげられたとおりで、沼垂小学校と江南小学校、どちらの学校とも、それなりの接点を持っていかなければならないというところで、継続課題として取り組んでいくということです。2番の災害時の助け合いの基盤については、地区の中でも進んでいるところと進んでいないところがあるとあげられておりました。顔の見える関係づくり、3番については、この座談会の中でもかなりお話がたくさんあったのですが、あいさつを通して、子どもたちから声をかけてもらえれば、大人たちにも広がってきたというまちの変化についてお話がありました。こういったあいさつ運動から顔がつながっていく関係が見えてくるところがあるということで、できれば地域全体であいさつ運動がしっかりできればというお話があげられておりました。

伊藤委員から、何か補足いただけることはありますでしょうか。

(紫竹中央コミュニティ協議会 伊藤委員)

ありがとうございます。

地区の課題の中で、交通の便、栗の木バイパス、今大工事が行われております。いずれ立派なものができることは事実でありまして、確かに今は少し不便を感じておりますが、国土交通省の協力を得て、工事の進捗状況の説明会を私どもが依頼し、それに出させていただきました。ある程度具体的に説明をいただきまして、私どもの地域と直接かかわるようなことをピックアップしていただいて説明いただき、ある程度理解できました。今後、立派な工事が完成することを願っております。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございました。次にまいります。

木戸地区です。

地区の良いところとしてあげていたところは、木戸コミュニティセンターがかなり活動の中心地となっているのですけれども、概ね全ての活動が、コロナ禍であっても再開することができてきたということで、これからまた、今までできていなかった飲食などが緩和させるともっと利用が伸びていくのではないかというお話でした。地域の居場所については、お茶の間が増えたり、子ども食堂が増えたりと、かなり居場所については進んできているところです。支え合いのガイドブックについては、以前出されたものの改訂版を出して、より地域の何か情報をすぐ手元に届かない皆様に届くようにというもので、改訂版を出されています。ただ、活用方法の周知が進んでいないところをあげられておりましたので、コミュニティ協議会の総会などで伝えていきたいということでした。私ども区社会福祉協議会でも、ホームページにアップさせていただく等で、できる限りご協力をさせていただこうと思っております。

地区の課題として、こちらのほかの地区と同様に、担い手の不足をあげられておられます。

実行計画については、地区の特色ある取組みとして、健康寿命の延伸ということで、各種スポーツ事業を積極的に取り組まれております。だんだんダンスというダンスを2会場で実施されていたり、ボーリング等に取り組まれております。担い手づくりにつきまして、②には、こういったたくさんの方が参加しやすい事業をきっかけに集まってくれたらということなのですが、若い人材がより見つかっていくような仕掛けづくりをこれからもやっていきたいというお話でした。③で地域のつながりづくりについて。自治会・町内会長と民生委員との情報交換会は令和5年度に開催予定ということで、なかなか民生委員さんと自治会長がつながった

関係ができていなかったところがあるかもしれないということで、これから関係を深めていきたいということをあげられておりました。

星委員から何かありましたら、お願いいたします。

(新潟市木戸地域コミュニティ協議会 星委員)

どうもありがとうございます。

私どもの中で、地域の課題としまして、自治会・町内会長の担い手が非常に不足していると。中には自治会長はなかなか数年出ていないで、代理を出されている町内会もございます。なかなかその辺が今の課題の一つでもあるのですけれども、明るい材料が出てきまして、木戸地区で、自治会長、町内会長というのは地域性が同じなのです。なかなか担い手が少ない、高齢化が進んでいる、若手の参加が少ないという形の中で、提案がありまして、この地区だけなのです、まだ。というのは、全く自治会に携わっていない方々、30歳代、40歳代の非常に若手の方をピックアップして、4、5人とか、そういうグループを組んでいただいて、全く今まで自治会には関係ない方々から年に2、3回集まっていただいて、その中でいろいろな、若手は若手なりの考え方があるのではないかと。全く、自治会のトップたちが依存して、「あなたたちこうしなさい」、「ああしなさい」、「こういうテーマで話し合ってくれ」ということは全くなしの話し合いをもってらおうじゃないかと。テーマは、何も関係なく。今後の木戸地区のことを考えてもらった面を、会議をやってくれという提案をしました。

そうしたら、やはり2、3人の方が「出てもいいよ」というような話もございます。これをもう少し広げて、4、5人くらいのグループを組んでやらせてみようかというようなことを今考えております。新年度、令和5年度から始める計画でいますので、その辺が今後、明るい兆しになってくればという感じで今見ております。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございました。次の地区に進ませていただきます。

牡丹山地区です。

地区の良いところとして住民同士の交流事業をあげておられますけれども、いくつか新型コロナウイルス感染症でなくなってしまったイベントもあるということなのですけれども、新しいイベント、寺山公園を活用した新しいイベントがいくつかあり、たくさんの方で賑わいができているということでした。地域の居場所については、茶の間もあり、子育て交流施設、東区2Kmの交流施設があり、子ども食堂や居場所、各種充実してきたということです。

地区の課題としては、さまざまな事業に取り組んでいるのですけれども、イベントや茶の間

などに参加される方が固定化してしまっているということをお聞きして、かなり工夫をこれから凝らしていかなければならないということでした。また、地域とのつながりが薄い、いわゆる集合住宅にお住まいの方についてということをお聞きしたのですけれども、地区で取り組んでいる支え合い活動、思いやり応援隊の広報物を直接ポストに入れるなどして、少しずつ接点を持っていければという取組みをされています。地区の課題の中で新しくあがったものとしましては、子育てに優しい地域づくりについての提案というご意見でしたけれども、中央区にあります若者サポートステーションですとか、若者支援センターオールのようなところが東区にもあれば、不登校やひきこもりという方の居場所になって通いやすくなるのではないかとこのところをご意見としてお聞きされている方がありました。

実行計画です。安心して暮らせるまちづくりとして支え合いのしくみづくりの部分をあげられておりましたが、思いやり応援隊の活動が継続していきまして、利用してくださいという広報物とあわせて、ボランティア、一緒にやってくれる人を募集しますといったパンフレットも出したりという形で活動を広げておられます。依頼が多いのは草取りやごみ出しなどですけれども、そういった中でも、気になる方がいたら、包括や、かかわる人が自治会長につないだり、ただの支え合い活動よりももっと先に行ってみたいというような、活動の幅を広げておられます。そのほかのところだと、地域で情報を共有しようということで、民生委員児童委員と自治会長との交流会、こちらの地区でも取組みを検討されているのですけれども、コロナ禍のためなかなかできていないということでした。新しい取組みとしては、高齢者の健康づくり活動としてフレイル予防教室を実施しており、好評だということで、今後も継続していきたいということです。

乙川委員から何か補足いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

(牡丹山小学校コミュニティ協議会 乙川委員)

はい。何もありません。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございます。次の地区に進みます。

大形地区です。

地区の良いところについて。地域の居場所の動きがかなり出てきているということです。新規の茶の間を立ち上げたい、または活動を中止していたところを再開したりという動きが2か所出てきているということです。また、令和3年からは子ども食堂の活動も始まっておりまして、地区の中で新しい動きが出ているということです。地区の中で活動されている団体、じ

やがいもの会も活動を計画していきまして、学校とのかかわりですとか子ども食堂とのかかわりを継続して行っていらっしゃるそうです。

地区の課題としては、町内のつながりづくりというところで課題が続いていることをあげられています。町内のつながりが薄くなって、亡くなられた方がいても、あとから聞くというケースが出てきて、なかなか今まで見知った関係で過ごしてきた住民同士の関係が少し薄れてきているというところを危惧されておりました。また、地区の課題のなかで、子どもたちの遊び場所をあげておられたのですけれども、外で遊ぶお子様が少なくなってきた、地域の活性化が見えなくなってきたのかなという声が課題としてあげられておりました。

実行計画です。地域のつながりづくりということで、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、活動がだんだん先細りになってしまっていることをあげておられました。大形まちづくりセンターが各種活動の中心的な拠点となっております。こちらについては、参加されている方の数は減っておらず、継続できているということですが、大々的な事業はまだできておらず、作品展覧会ということで活動されている団体に活躍の場、表現の場を作っているということです。今後は、その取組みを外に広げて、学校や茶の間などでそういった団体の活動や特色をつなげていければいいなというアイデアが出ておりました。③支え合いのしくみづくりの推進については、各自治会長の皆さんへの説明から進んでいないということですが、特に必要だと思われるところについては、自治会単位での支え合いのしくみづくりの動きが出てきているそうです。また、支え合いのしくみづくりの一環として、パンフレットを使って周知を図っていきたいというような計画もあげられておりました。

次の地区に進ませていただきます。

江南地区です。

地区の良いところとしてあげていた各種交流事業で、一部、できていないものがあるということですが、形を変えて継続しているものもあり、今後も、今年5月以降についてはもとの形に戻すのか、もっと工夫を凝らしていくのか、そういったお話が出ました。

地区の課題の部分でお話がかかりあがりまして、担い手の不足をとて重く受け止めておられました。短い周期で自治会長が変わるところが、なかなか、継続したまちづくりにつながっていかない、引き受け手がないという課題がすごく重く感じているということで、コミュニティ協議会の皆さんも、コミュニティ協議会自体が知られていない、必要と感じてもらっていないというところを、いかに伝えて、積極的に参加していただける方法がないだろうかというお話が多かったです。

実行計画でも、①には後継者と若い人を育成しようということがあがっています。PTAの皆さんはとて積極的な活動をされているそうなのですが、お子さんが学校を卒業する

とそれで縁が切れてしまうようなところがあり、そこから地域の活動に根付いてくださる方を育成していければということでした。③の支援のためのネットワークづくりですが、令和3年7月から支え合いの活動「こうなんお助け隊」が立ち上がっていて、登録のボランティアさんが20人ほど、年間の利用は130件前後ということで、これからもっと根付くまで取組みを進めていきたいということでした。新しい取組みとしては二つあげられております。高齢者向けの取組みとして、令和3年から「はじめの一步」として健康講座やエクササイズ、参加者の方が自分で目標を定めて積極的に頑張ってくださいの形を試してみたところ、100名くらいの方が参加されているということで、今後も継続していきたいということです。また、ボランティアの方へのアンケートとして、江南支会とコミュニティ協議会でボランティア活動をされている方を対象にアンケートを実施して、まだ結果をまとめているところだそうですが、どのような取組みをして、どのようにこれから地域をよくしていくかに活用していきたいということです。

次に進ませていただきます。

中野山地区です。

地区の良いところであげている各種項目については、コロナ禍であっても、一部中止しているものもあるけれども、継続できているということでした。

地区の課題。地域の関係づくりについては、ほかの地区でもあげておられましたけれども、小さい地域でのお付き合いが減ってきてしまっていることをあげておられました。新しい項目としては、自治会のない空白地区ができてしまっているということで、集合住宅の中で自治会を作っていないところがあるのですが、今のところは若い世代の方が多い集合住宅ということで、目立った話は出てきていないということです。

実行計画については、顔が見える関係づくりの推進ですとか、気軽に集まれる居場所づくり等について、活発に、できる限り、コロナ禍であっても継続されているということです。ただ、苦慮されているのが②非常時にも対応できる仕組みづくりについて、障がいのある方、介護が必要とされている方については、支援が必要と思われるけれどもなかなか把握が難しいということをおられました。新しい取組みとしては、困ったときのガイドブックということで、スマホなどでご自分で情報を取りに行くことが難しい方向けにガイドブックの発行を予定しているということで、令和5年に発行したいということです。私ども社会福祉協議会や健康福祉課、たくさんの方が協力して作っていますので、完成が待たれます。

次の地区に進ませていただきます。

南中野山地区です。

地区の良いところについて、地域の茶の間が増えてきていることをあげておられました。

地区の課題としては、もともとの計画にあげられていたところについては継続課題、いずれも、すぐに解決するものではなくて継続していくということです。新しい課題として二つあげられております。担い手の育成・発掘については、こちらの地区でもかなり問題としてあがっております。ただ、そういったところについても、今年度、自治会が出したヒント集などを見たり等で、今後の自治会運営を前向き捉えていきたいということでした。また、認知症で一人暮らしされている方の見守りということで、心配な方がおられるようです。地域の見守りとしてどこまでできるのだろうか、課題として捉えていらっしゃいました。

実行計画では、支え合い活動のヘルプ南中野山の活動を継続されています。さまざまな依頼を受けている中で、かかわりをとおして、かかわっていらっしゃる、支援する方もされる方も、気持ちがあがってきたというお話が出ていました。居場所づくりですか、民生委員児童委員との情報共有ですか、コロナ禍であってもできることを継続されているということです。こちらの地区でもフレイル事業を令和3年から実施されています。約60人の方、たくさんの方の参加があり、継続していかれるということです。

渡辺委員から何か補足はございますでしょうか。

(南中野山小学校区コミュニティ協議会 渡辺 孝一委員)

特に付け加えることはありません。ありがとうございました。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございました。次にまいります。

東中野山地区です。

地区の良いところとして、学校と地域のつながりをあげておられます。登下校の見守りや安全マップづくりは、コロナ禍にあっても継続しているということです。

地区の課題については、いくつかあがっております。見守りの体制づくりについて、顔が見えない関係になってしまう、集合住宅にお住まいの方との関係づくり、見守り体制の構築の課題は続いているということでした。支え合い活動については、ごみ捨てに関する相談が増えてきているようです。本当に必要とされる方に支援が届くような体制づくりを継続した課題として捉えているということです。担い手不足がこちらでもあげられていまして、地域活動の核となる方、次につながる方がなかなか見つからないというお話でした。

実行計画です。誰もが安心して暮らしていけるためのネットワークづくりということで、地域の茶の間、地区の中の茶の間の皆さんが集まって情報交換をして、より活動の幅を広げていく活動をされているそうです。また、地域での支え合い活動がスタートしたということで、草

刈、除雪などの依頼がきていて、今後も継続していくということです。

野村委員から、何か補足がございましたらお願いいたします。

(東中野山小学校区コミュニティ協議会 野村委員)

学校と地域の関係で、登下校の見守りや安全マップづくりは、今、特別に、今まではあまり P T A の協力がなかったのですけれども、昨年、一昨年から P T A の会長が変わった途端に、有り余るほどのボランティアに出てきたもらっていますので喜んでおります。やはりよく話し合いをしたら、自分の子どもたちは自分で守るという意味で、大勢の P T A のボランティアを出してもらっています。

あと、地域の課題の見守り体制についても同じことがありますので、今、非常に良くなってきていると私は解釈しています。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

ありがとうございました。

以上で 12 地区の地域福祉座談会の報告となります。ありがとうございました。

(小池委員長)

ご報告ありがとうございました。全体をとおしまして、皆様からご質問、意見等はございませんでしょうか。村山委員、お願いいたします。

(包括支援センター山の下 村山委員)

山の下地区の「山の下夜遊びランド」、すごくネーミングもよくて大反響があったと伺ったので、どのような活動であったのか伺いたいと思って。お願いできますか。

(小池委員長)

ありがとうございます。米田委員、お願いできますか。

(山の下地区コミュニティ協議会 米田委員)

山の下コミュニティ協議会の米田と申します。よろしく申し上げます。

今お尋ねのあった夜遊びランドは 8 月の下旬、10 月には市場通りを利用したハロウィンパーティをやりました。これもおかげ様で大変盛況で、いわゆる公式発表で 2,500 人。夜のみなどランドでの会合は、おそらく 7,000 人くらいだったということで、数字だけで言うとすごい

ですが、実際、大変大勢の方から入場していただきました。

これはいずれも、実は区役所の建設課と、ずっとまちづくりについていろいろ勉強会をやっておりまして、その中で、地域の活性化ということで何か一つイベントをやろうということになりまして、山の下コミュニティ協議会と桃山コミュニティ協議会の両方で、まちづくりセンター運営委員会を作っていますが、その運営委員会と建設課が一体となって実行委員会を作りまして進めてきました。要するに賑わいを作ろうと、1回とにかくやってみようということで、コロナ禍という状況ではあったのですが、できる限りの防御態勢を取る中で何とか実行していこうということで進めてきまして、おかげ様で、その後、聞いた中でも、それが原因で新型コロナウイルス感染症にかかったという話も一切なくて、結果的には予定どおりというか、成果を上げることができたと思います。

この活動をつうじて、私の率直な感想ですけれども、一番びっくりしたのは、地域の皆さんなのです。山の下にこれだけの人が集まるのか、まさか全部住んでいるとは思わないのですけれども、少なくとも、人がこれだけ集まって楽しく交流できる可能性がある、それが目の前に具体的にあらわれたという中で、特に最近、山の下は高齢化が進んでいまして、いわゆる地域の過疎化のような形なのです。市場のほうは非常にさびれた感じがあったのですが、そういう中で、ともすれば先行き悲観的な感覚を持っている方も、「いや、待てよ」と、「やれば何かあるんじゃないか」というように、そういう意味で自信というか、付けることもできたかと思っています。

これは、区役所の大変なご尽力、ご協力をいただいて、向こう2年間、継続するという方向で今進めております。令和5年度も、今のところ8月末に二日間かけて、みなとランドの、夜遊びランドをやると。ハロウィンパーティについては10月、寒くて大変なのですが、短縮して、終わりを切り上げて、前回は9時ころまでやる予定だったのですが寒さのために切り上げて、実は7時過ぎに終わったのですが、令和5年度は夜は7時までにしよということになりました。令和6年度のことについてはまだ具体的なものは何も考えておりません。

そういう状況で、継続して、さらに賑わいとか人の流れを山の下地域に新しく作るということで、桃山コミュニティ協議会との協力をさらに強めながら進めていきたいと思っています。

(包括支援センター山の下 村山委員)

ありがとうございます。そのみなとランドの遊具の辺りを夜も開放して、子どもも来て行うという感じだったのでしょいか。

(山の下地区コミュニティ協議会 米田委員)

そうですね。一日目、初日は午後から開場して、夜 11 時に、新日本海フェリーの最終便が 11 時ころに出航するのです。その最終便をみんなで送って終わりにしようということで、それまでの間、ライトアップして、子どもたち、小さい子でも安心して遊べるようにいろいろな対応をしまして実施しました。それは継続することになっています。

(包括支援センター山の下 村山委員)

ありがとうございます。

(小池委員長)

ありがとうございました。事業の組み立てから丁寧に説明していただいて。夜、なかなか遅くまで、ちょっとわくわくするようなイベントだったのだなということをお聞かせいただいたと思います。

ありがとうございます。そのほか、皆様からご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

今回、東区社会福祉協議会で、各地区ごとに、皆さんと今、皆様お手元にあると思いますけれども、このふれあいプランのほうで設定されました目標、目指す姿に伴って、内容にてらしてご報告をいただいたと思います。その内容、それぞれのところで、新たにできたところや、新たに課題として継続しているというところも皆さんのほうで、皆さんと一緒にこの場で共有できる機会になったと思います。今後もこのような形で皆さんと一緒に、各区の中での課題、そしてその課題に対して皆さんがどのように感じておられ、何がプラスとしてとか良いところとして見えてきているのか、逆に、ここはもう少し一緒に力を合わせていきたいというところ、あるいは、新しい変化もいくつか皆さんから報告していただいたようで、そういったものが見えてきたということも、すごく確認の方法としてはよかったと思いながら聞かせていただきました。

また皆様のほうでも、今後とも、活動等を継続されていく中でお気づきの点等がございましたら、共有であったりとか、こういう座談会等の中で皆様の声を聞いていただきながら共有していくという形が展開できるといいかと思っております。ありがとうございました。

続きまして議事 3 点目に移ってまいりたいと思います。(3) 令和 5 年度東区健康福祉課および東区社会福祉協議会の事業内容につきまして、事務局と東区健康福祉課から説明をお願いいたします。

(事務局：東区健康福祉課 内山副主査)

東区健康福祉課の内山と申します。私から説明させていただきます。

皆様、お手元の資料2「令和5年度東区健康福祉課 特色ある区づくり事業(案)一覧」をご確認ください。上から順に説明いたします。

一つ目の「高齢者見守り訪問・介護予防事業」です。高齢者の生活支援への取組みとして、東区内の75歳以上で介護認定などを受けていない高齢者のうち、単身世帯および高齢者のみ世帯の方を対象に、民生委員の皆様からの協力のもと、見守り訪問を実施し、生活の様子を確認するとともに、状況に応じて必要なサービスにつながるよう支援していきます。また、健康寿命の延伸を目的に、コミュニティ協議会と協働して、生活習慣病の予防や介護予防講座などを開催し、健康づくりの支援を行います。

続いて二つ目です。「東区2Km子育てトライアングル魅力発信」です。主要な子育て支援施設「い〜てらす」、「こども創作活動館」、「わいわい広場」が2キロメートルの距離で結ばれていることから、「東区2Km子育てトライアングル」をキャッチフレーズに「東区こども文化祭」を開催するなど、3施設の効果的な情報、魅力を発信し、子育てにやさしい東区を啓発していきます。

続きまして三つ目です。「思春期の心と体の健康教育」です。中学校、高校、特別支援学校で助産師等の専門職による性教育や、相手を思いやる気持ち、命の大切さを学ぶ思春期健康教育を行います。

また、下の参考になるのですけれども、区づくり事業とは別枠で、今年度から継続して以下の2事業を実施します。

一つ目です。「子育て応援事業」は、妊娠期から父母双方に、子育てに関する知識を得てもらい、知らないことによる虐待リスクを減らし、出産後の不安感や孤立感を解消するため、妊婦とそのパートナーを対象に、助産師と連携して「プレママ・パパセミナー」などの育児支援講座を開催します。また、父親向けに休日開催の講座を実施し、父親の育児参加を促進します。

次に二つ目です。「むし歯予防事業」は、子どものむし歯の改善に向け、子ども食堂、保育園、幼稚園、放課後児童クラブ等と連携し、子どものむし歯予防を啓発するとともに、健康相談やむし歯予防教室の実施など、歯と食育の健康づくりを行います。

以上で、令和5年度東区健康福祉課所管の区づくり事業(案)について説明を終わります。

(小池委員長)

ありがとうございました。続きまして東区社会福祉協議会から説明をお願いいたします。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

東区社会福祉協議会、帯川でございます。私から説明させていただきます。

令和5年度東区社会福祉協議会の主な事業(案)としまして、四つの事業をお伝えいたします。

まず、子ども、重点事業として2事業をあげております。

一つ目が、「地域包括ケア推進事業(1層)」です。地域包括ケア推進事業という名前ですと馴染みがないかもしれません。支え合いのしくみづくりのことでございます。子ども東区社会福祉協議会に支え合いのしくみづくり第1層の推進員が配置しております。各地区の取組みを支援させていただいております。それぞれの地域ごとの特色や課題に合わせて、各地区に伺いまして、第2層の推進員の皆様と合同で進めさせていただければと思っております。

二つ目が「コミュニティソーシャルワーク推進事業」です。CSW、コミュニティソーシャルワーカーという職員を配置しております。いろいろ、お困りのことが重なっていらっしゃる世帯への支援とあわせて、1世帯の支援ではなくて、そこから地域の課題として捉えて、より福祉のまちづくり、仕組みづくりを進めていこうというものでございます。

次に拡充事業です。2点あげております。1点、コミュニティソーシャルワーク推進事業は再掲となりますので割愛させていただきます。

子育て新事業についてです。子育て中の親子が地域で孤立しないよう、支援の場、そして居場所づくりの支援を中心としております。子ども食堂の運営や立ち上げの支援ですとか、やっという団体同士のネットワーク会議を開催する等しております。また、子育てサロンの方々への助成に加えまして、子ども食堂の運営にかかる助成金も令和5年度新設いたしまして、子どもを見守る地域づくりの推進に努めてまいります。

関連事業としてもう1事業、あげさせていただきます。

「地域福祉活動計画推進事業」としまして、今ほど私からご報告させていただきました地域福祉座談会、令和5年度も各地区で開催させていただきたいと思っております。先ほど委員長からありましたとおり、年に1度、計画を振り返り、見直し、どのような取組みをして、どのような課題を共有させていただいて、一緒に取り組ませていただけたらという会にしたいと思っております。開催にあたりましては、地区の皆様のご協力なしには成し得ませんので、ぜひともよろしく願いいたします。

また、東区では、支え合いの仕組みづくりの推進員の皆様、各コミュニティ協議会ごとに配置されていることもありまして、そちらとも連携しながら進めさせていただきたいと思っております。

(小池委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。令和5年度の東区健康福祉課、東区社会福祉協議会、それぞれの事業についてご説明がありましたけれども、青木委員、お願いいたします。

(東区身体障がい者福祉協会 青木委員)

新年度の健康福祉課の特色ある区づくりの中での新規の3番、思春期の心と体の健康教育という項目が載っておりますが、どのようにこれが実施されていくのか、少しイメージが沸きませんので、教えていただければと思います。

(小池委員長)

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：東区健康福祉課 岡村課長補佐)

健康福祉課の佐野です。

現在も中学校全部の8校に、思春期健康教育ということで助産師と保健師が出向いて、8校で性教育とか、命を育む大切さということで妊婦体験ジャケットをつけたり赤ちゃんを抱っこしたりというようなことを、中学生にも、1年から3年生、対象学校に合わせてやっております。そこに加えて、来年度は、高校、2校ありますので北高校、東高校、それから特別支援学校は2校、市立とよつば学園に出向いて、追加してやっていきたいと思っております。

これらにつきましても、助産師会に委託措置をとりまして、保健師も一緒に出向いて各学校の対象学年を決めまして、1学年という形になると思うのですがけれども、体育館に集まってやったりとか、細かく各クラスに入ってクラスごとにやったりとか、その辺は工夫しながらやっていきます。

(東区身体障がい者福祉協会 青木委員)

ありがとうございました。今年度は高校が入るということですね。

(事務局：東区健康福祉課 佐野課長補佐)

令和5年度は、高校と特別支援学校を追加して。

(東区身体障がい者福祉協会 青木委員)

分かりました。ありがとうございます。

(小池委員長)

ありがとうございました。そのほか、ご質問等ございませんでしょうか。伊原委員、お願いいたします。

(公募委員 伊原委員)

私も健康福祉課にお聞きしたいのですが、同じく新規の2番の、東区2Km子育てトライアングル魅力発信、すごくいいなと思ったのですが、東区子ども文化祭はいつくらいに開催される予定なのかということと、下の子育て支援施設をめぐるスタンプラリーもすごくいいなと思うのですが、具体的にどういった施設を今検討されているのか教えてください。

(小池委員長)

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局：東区健康福祉課 小杉主幹)

健康福祉課の小杉です。私から説明させていただきます。

子ども文化祭につきまして9月に開催することを予定しております。東区プラザで、土曜日一日くらいを使って簡単な催し物、ミニステージの上で学校にお願いして何かパフォーマンスをできたりとか、そういうことも考えております。あと、そこで、東区プラザを会場に、1週間くらいお子さんの作品とか、そういったものも展示しようかと考えております。

スタンプラリーにつきましては、ここに書きました「い〜てらす」、「こども創作活動館」、「わいわい広場」、こちらの3施設を、知っている人はこの施設をよく分かっているのですが、実は、知らない人は本当に知らないで子育て期間が終わってしまいますので、そういった方にもPRできるように、夏休み期間を使ってお子さんを中心にここを回ってもらうとか、そのように今考えております。

(小池委員長)

ありがとうございました。そのほか、いかがでしょうか。

ありがとうございます。青木委員と伊原委員に発言いただいたので、山田委員、一言、今の、

今回の事業でも構いませんし、全体の中でお気づきのこととか感想等がありましたらお願いできますか。

(東区自治協議会 山田委員)

よろしく申し上げます。

社会福祉協議会の子育て支援事業の中で、子ども食堂ネットワーク会議がありますが、定期的に関わっていただいて、そこで今回、子ども食堂同士の横につながりができたことがとてもよかったです。私は木戸コミュニティ協議会で子ども食堂をしていますが、ラインで横のつながりというグループに入れていただいて、早速、たくさんもらった物が余っているのだけでも要る人いませんかと、いただいたり貰ったりとか、スタッフが足りないのだけれどもと言ったら「少し調整してみます」とか、そういうことで、連絡が取れたと思ったら活用されています。とてもよかったです。またこれからも継続してやっていっていただきたいと思います。

あと、子ども食堂が、例えば木戸は昼間やっているのですけれども、夜やっている食堂さんもうらっしゃいますけれども、子ども食堂に限らず、子どもたち、夜、ひとりぼっちの子どもたち、けっこう居るので、そういう居場所も考えていければと思います。

(小池委員長)

ありがとうございます。ネットワーク会議、私も参加させていただいていますけれども、やはり横のつながりは大事だと思って、今日、先ほど地区の報告でも、茶の間のほうでも横のつながりができていますというご報告があって、少しずつ東区の中でそういう、区とか地域の中で同じ活動をされている方たちの横展開ということが動いていると、うれしく聞かせていただいております。ありがとうございます。

西方委員も一言お願いできれば嬉しいのですが。お願いします。

(東区老人クラブ連合会 西方委員)

紫竹中央コミュニティ協議会の西方です。

自分のことを話せというと、昨年5月20日に食道がんになりまして、上の胃袋を半分にして、それを食道にしまして、継ぎ足して縫いました。そこまでは私全然知らないのです、寝ておりましたので、麻酔がかかっています。そのあと起きて、注射というよりも、栄養剤を……、管で上の小腸の一番上の方に刺すのです、それから栄養を入れていくのです。それが取れるのが半年少しかかりました。ではそれでご飯を食べられるかということそうでもないのです。食べ

るとうえーとなって、それを克服するために半年かかりました。合計1年かかりました。

今、こんなことをしておりますけれども、仕事だけは辞めようかなと。85歳になりますので、もう1か月くらいで。全部役をやめなさいと家族から言われて、一応そうだなと言っているのですけれども。一つ、二つくらいは辞めるわけにいかならうと。誰も引き受け手のない役もあるものですから。前任者がそれこそ腹を切って、昔の侍のような死に方をして、あとは誰も継ぎ手がいなのです。そこだけは何とかならうという思いでありましたので、今日は出てきなさいということで。

私は新潟を離れて26年間、西日本を中心にずっと動いてまいりました。26年間。10くらいの県、市を回ってまいりました。いろいろと団体があるのです、その地方によって。一番全国的に流行っていたのは、ロータリークラブとかライオンズクラブ、いわゆる社長さん連中がずっと集まっている会合、私は30歳代でしたけれども、そののところに一緒になって話をしました。みんな、地域に居ると考えることはみんな同じなのです。自分の商売のことを考えるのでしょけれども。

そんなことがありまして、やはり入って来る人、それをどのようにもてなすか、市民になっていただく、転入なさっていただく方です。出て行く方にもどうしようかということ、そういうことに気を使うというような委員会というか、そんなことをさせていただきました。ですから、どこへ行ってもみんな言うのだなと。みんないい地域ですよ。誰がこんなことやっているか分からないけれども、本当によく皆さんまとまって。あまり大きい市には行っていないのです。政令市は行っていないのですけれども。5、6万くらいの市ですと非常によくまとまって、3万くらいの市は本当によくまとまっています。そうやらないとやっていけないのだらうと思っております。

私もよくしていただきました。日本中回ったのに、本当によくしていただきました。それが基にあるものですから、何かやることはないのかというようなことで、自治会やら何やら、受け手がなければということでずっとやらせていただいて、新潟へ帰ってきてもう29年でございますけれども、いくつかの役をずっと続けて、今やっているのは日本赤十字関係の役だけでございます。何とか役に立つことがあれば何でもやりますというようなことでおりますけれども。近所はよく分かりますけれども、自治会の中はよく分かりますけれども、他所の自治会は良く分かりませんので、そこまで手が伸びないかなと思っております。

(小池委員長)

ありがとうございました。

皆様からいろいろなご意見、ご質問等も今回もたくさん出していただきましてありがとうございます

ございました。

予定しておりました議事はこれで全て終了いたしましたので、事務局に進行をお返ししたいと思います。皆様方、ご協力ありがとうございました。

(事務局：東区社会福祉協議会 帯川事務局長補佐)

小池委員長、スムーズな進行、どうもありがとうございました。

続きまして、次第3、事務連絡です。

(事務局：東区健康福祉課 内山副主査)

次第3、事務連絡ということで、委員の改正についてご説明させていただきます。

現在委員を務めていただいている皆様につきましては、任期は2年間ということで、今月末で満了となります。2年間、計画の推進にさまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。次期委員につきましては、各コミュニティ協議会や各団体などに推薦をお願いしているところでございます。

来年度以降も引き続き委員を続けていただける方もいらっしゃいますが、今後もさまざまな立場で東区の地域福祉の向上にご協力いただき、ご意見を賜りたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

続きまして、本日の謝礼についてですが、4月中旬ごろにご指定の口座に振込予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

また、令和5年度第1回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会につきましては、7月ごろの開催を予定しております。時期がきましたら皆様にご連絡いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(司会 事務局：東区健康福祉課 岡村課長補佐)

以上をもちまして、令和4年度第2回東区地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会を閉会といたします。本日はお忙しいところを熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。お忘れ物のないように、気をつけてお帰りください。ありがとうございました。